

日刊 動労千葉

84. 5. 1

No. 1630

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七



結成からの5年間を担った全支部長に盛大な拍手が送られた。

本物の労働組合めさせ

5周年記念集会開催

「動労千葉結成五周年記念集会・レセプション」は四月二十八日、県労働者福祉センターに組合員二三〇名をはじめ、多くの来賓を迎えて開かれ、分離独立以降五年間の闘いの正義性を確信し、中曽根の軍大化・改憲攻撃を「三里塚・国鉄を基軸とした労働運動」の展開で打ち破ることを確認しました。

結成五周年の意義を確認しよう

昨年の定期大会において、動労千葉結成五周年記念行事の開催と実行委員会の発足を決定し、各支部から選出された実行委員の努力により、三つの取り組みが企画されました。

今回の「集会・レセプション」は、その第一弾として開かれたものです。

集会第一部は、吉岡(一)実行委員の司会で始められ、水野実行委員長から集会開催に至る経過と意義が述べられた後、布施書記長から基調報告が行われました。

布施書記長は、冒頭、ストなしゆえに政府・財界の賃金抑制政策に屈した春闘、動労「本部」革マル・当局が結託し、妥結を強行した動乗勤改善阻止闘争、線区徐行解除をめぐる状況について明らかにしました。

そして、こうした中で五周年を迎えたことの意味を、五年間の闘いの勝利的総括にふまえ、動労千葉の闘いこそが情勢を打開し、労働者階級の未来を切り拓くものとの確信を深めることだ、と提起しました。

さらに、当面する取り組みについて述べ、三里塚を闘える労働運動の拡大以外に労働者の未来はなく、3・25三里塚五割動員を実現した地平の上で、5・20三里塚現地集会に全力で取り組もうと訴え、全体の拍手で確認しました。

「三里塚・国鉄」路線の全国的拡大を

集会第二部は、主催者を代表して中野委員長のあいさつをうけました。

中野委員長は、動労「本部」革マルの攻勢にうちかかって分離独立した闘い、81・3ジェット闘争という政治闘争を闘い、しかも、大弾圧をうけながら微動だにせず旗を守っていること。労働運動

の常識を破る3・25五割動員を実現した闘いの意義を明らかにする一方で、日本労働運動の大変な落ちこみ、とりわけ国鉄労働戦線をめぐって動労「本部」革マルがいかに犯罪的役割を果たしているかを暴露しました。そして、こうした状況を突破し、中曽根内閣を打倒するためにも、三里塚・国鉄を基軸とした労働運動の全国的拡大をかちとることの重要性が提起されました。

集会には県労連の井原議長、三里塚芝山連合空港反対同盟の北原事務局長をはじめ、多くの来賓の方々がかつけつけられ、それぞれあいさつを受けた後、関川前委員長の音頭で乾杯し「レセプション」に移りました。

動労千葉結成後の全支部長が登場

司会を秋葉実行委員に交代し、この日のレセプションに招かれた「法政大学・ニューオレンジ・スイングオーケストラ」のメンバーによる軽音楽が演奏され、なごやかな歓談のひとときを過ぎました。

来賓あいさつ、メッセージ・祝電が紹介された後、全参加者の盛大な拍手、声援を浴びて動労千葉結成後の全支部長が壇上に並びました。

代表して松崎・新小岩支部長は、「一人の脱落者もなく五周年を迎えたことを喜びたい。労働戦線がゆゆしき事態にある時、動労千葉結成の理念―労働連帯を旗印に十年、二十年がなばっていきたい」との決意を表明しました。

また、日暮・成田支部長は「五年間を経過したいま、実によく闘ってきたと思う。これは本部の指導性の正しさと、組合員の真面目さゆえだ。今日は、本部に拍手をおくりたい」とあいさつしました。

会場には「五年間の歩み・パネル展」のコーナーも設けられるなど、参加した組合員は自分達がつくりあげた本物の労働組合のすばらしさを見つめ直すとともに、より強くたくましく育てていく決意をうち固め、最後に、高野実行委員の閉会のことばをもって成功裡に幕を閉じました。